

JGG-Info-Blatt HERBST 2020

一般社団法人 日本独文学会

Japanische Gesellschaft für Germanistik e.V.

ニュースレター2020 秋号

JGG-Info-Blatt / HERBST 2020

まえがき

会員の皆さま

去年の秋号で最初のご挨拶を申し上げてから、あっというまに一年が経ってしまいました。法人化後の学会運営の安定化、という第一の目標は、おかげさまでかなり実現できたように思います。制度的な要件が変わり、当初は戸惑うことも多かったのですが、特に庶務理事の皆さん、そして前理事会で会長及び法人化担当の理事として実現に尽力された清野監事、糸川監事のお力添えで、大きなトラブルもなく業務を進めてまいりました。

学会のスリム化、というもう一つの課題にも、少しずつ取り組んでまいりました。理事の皆さんにはそれぞれの所轄での業務の見直しに取り組んでいただいております。特に機関誌の刊行体制を見直すことにより、かなりの費用削減を実現できました。発案と実現に当たられた香田理事および関連諸機関の皆さまに御礼申し上げます。

岩崎奨学金も、若手の出版助成という形で再出発をはたしました。

本来でしたら、任期の半ばにあたり、もう少しまとまった成果をご報告すべきところなのですが、なにより、今年に入ってからにはコロナ問題の対応に追われ、つぎつぎと降りかかる問題の処理に追われているうちに時間が過ぎてしまったというのが正直なところです。

文化ゼミナール、教授法ゼミナールも中止となり、東京大学で開催予定だった春学会も、一部が Web 発表という形をとり、研究発表会としては中止となりました。それぞれの中止を決定するにあたっては迷いもありましたが、その時点では現在のような状況を、少なくとも私は想像しておりませんでした。今後の事態の展開も見通せない状況が続いております。いずれのゼミナールも、状況の許す限り、今回実施予定であったプログラムでの実現をめざす、という方針が理事会で承認されています。それが叶うことを願ってやみません。

新体制一年目の総括に当たる総会も、オンラインという全く新しい形での開催となりました。事前の準備から、実施まで、理事会の皆さまには本当にお世話になりました。

秋の学会も、オンライン開催となります。現在、企画担当理事を中心に、円滑な実現へ向けて試行錯誤しながら準備を進めているところです。発表者の皆さんにも、これまでにない多くのお願いをさせていただきました。発表要旨の編集と、当日の司会には、会場として予定されていた富山大学をはじめ、北陸支部のお世話になります。会員の皆さまにおかれましては、ふるってご参加いただきますよ

うお願い申し上げます。

春号の前書きでも申し上げましたが、この状況下での授業や各業務の遂行にあたり、会員の皆さまもこれまでにないご苦勞があったと思います。学会としては、一方で、会議のリモート化により旅費と労力が大幅に削減される、などの利点もありました（もちろん、会議のリモート化にも一長一短がありますが）——オンライン化・リモート化をめぐるさまざまな経験と、突き当たった問題などについて、共有し、討議する場があってもいいように思います。学会としてできることはなにか、改めて考えていきたいと思ひます。ご意見をお寄せください。

会長 宮田眞治

目 次

まえがき

募集のご案内

2020 年秋季研究発表会について	1
2021 年春季研究発表会について	2
2021 年春季研究発表会のご案内	
Bekanntmachung der Frühlingstagung der JGG 2021	
研究会開催のための会場借用について	
Raumbenutzung bei der Frühjahrstagung der JGG 2021	
学会当日の机・椅子の借用について	
Infotische auf der Frühjahrstagung der JGG 2021	
第 19 回日本独文学会・DAAD 賞選考への応募について	8
第 62 回ドイツ文化ゼミナール開催について	10
第 25 回ドイツ語教授法ゼミナールについて	11
2020 年度ドイツ語論文執筆ワークショップの開催について	12
DAAD 奨学金についてのご案内	13
DAAD・ゲーテ主催国際シンポジウム開催のお知らせ	17
会費納入について	19
独検存続危機にとまなう緊急支援ご寄付（賛助金）のお願い	22

報告

第 17 回日本独文学会・DAAD 賞日本語部門審査報告	24
第 17 回日本独文学会・DAAD 賞審査報告（ドイツ語部門）	26
日本独文学会 2020 年春季研究発表会報告	30
第 62 回ドイツ文化ゼミナール報告	31
第 25 回ドイツ語教授法ゼミナール報告	32
2019 年度ドイツ語教員養成・研修講座報告	33
日本独文学会研究叢書既刊一覧	35
支部報告	36
ドイツ語教育部会報告	41
2020 年度岩崎奨学金（出版助成）について	45

その他

訃報	47
----	----

あとがき

48

2020 年秋季研究発表会について

2020 年の秋季研究発表会は、北陸支部の担当で富山大学にて 10 月 17 日、18 日に開催の予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大の状況に鑑み、オンラインにてシンポジウムおよび口頭発表に内容を限って開催されることとなった。各発表者が発表内容を事前公開コンテンツとして公表し、オンラインでは質疑応答を中心に行うハイブリッド形式にて、シンポジウム 6 本と口頭発表 10 本が予定されている。事前公開コンテンツの公開期間は 11 月 7 日（土）～11 月 22 日（日）、オンライン質疑応答は 11 月 21 日（土）、22 日（日）に行われる。

企画担当

2021 年春季研究発表会のご案内

下記の通り、2021 年春季研究発表会を開催いたします。

期 日：2021 年 6 月 5 日（土）、6 日（日）

会 場：東京大学本郷キャンパス

〒113-8654 東京都文京区本郷 7 丁目 3-1

研究発表をご希望の方は「発表申込書 1（申込者情報）」（Excel 形式）をダウンロードし、「発表申込書 2（発表概要）」（Word 形式）と共に電子メールによる添付ファイルとして下記宛にお送りください。その際、必ず「研究発表申し込み要領（2020 年 2 月 1 日改訂）」を熟読ください。申し込み審査のガイドラインもそこに記載されています。

申込締切： **2020 年 12 月 4 日（金）**

申込先： **tagung2021tokyo_AT_jgg.jp**（_AT_ は@）

申込要領と申込書ダウンロードの掲載箇所：

「日本独文学会サイト（<http://www.jgg.jp/>）」

→ 「研究発表会」

→ 「研究発表申込要領」

2020 年 8 月
日本独文学会理事会

Bekanntmachung der Frühlingstagung 2021

Die Frühlingstagung der JGG findet statt:

am Sa., 5. und So., 6. Juni 2021
an der Tokyo Universität, Hongo-Campus
Hongo 7-3-1, Bunkyo-ku, 113-8654 Tokyo, Japan
<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/about/campus-guide/index.html>

Wenn Sie sich als Referent/in bewerben möchten, senden Sie bitte das ausgefüllte Antragsformular per E-Mail als Attachment

bis zum **Fr., 4. Dezember 2020**

an: **tagung2021tokyo@jgg.jp**

Beachten Sie dabei die „Modalitäten zur Bewerbung für Referate auf den JGG-Tagungen (revidiert am 14. Oktober 2011)“! „Die Modalitäten“ und die „Antragsformulare“ befinden sich unter:

Homepage(<http://www.jgg.jp/>) > „deutsch“ > „Tagungen“ > „Referatsanträge“

* Vergessen Sie bitte nicht, die Seite der persönlichen Angaben auszufüllen!

September 2020
Vorstand der JGG

研究会開催のための会場借用について

2021 年春季研究発表会の折に研究会開催のための会場の借用をご希望の場合は、下記の要領でお申し込みくださいますようお願いいたします。

記

1) 申し込み方法

「研究会会場借用申し込み」と記し、必要事項 a) ~ e) をご記入のうえ、電子メールでお申し込みください。

- ・申し込み期限：2020 年 12 月 4 日（金）[必着]
- ・申し込み先：tagung2021tokyo_AT_jgg.jp（_AT_ は@）
 - a) 研究会の名称
 - b) 責任者氏名・所属先および連絡先（電話番号，電子メールアドレス）
 - c) 借用を希望する時間帯：6 月 6 日（日）
13:15 ~ （終了時間）
 - d) 使用目的
 - e) 参加予定人数 名（そのうち本学会員 名）

2) 会場借用の時間帯

借用可能な時間帯は、学会 2 日目 6 月 6 日の午後（13:15~16:00）です。

3) 会場使用料

教室の使用に際しましては一定の使用料をいただくことになります。料金については、使用教室のご案内とともに、日本独文学会事務局より開催約 1 ヶ月前にお知らせします。

- ◎ 商行為を行うことはできません。
- ◎ 詳細は研究会責任者にご連絡いたします。

2020 年 9 月

Zur Beantragung der Raumbenutzung bei der JGG-Frühlingstagung 2021

Vereinen oder Arbeitsgruppen der JGG kann auf Wunsch bei der JGG-Frühlingstagung 2021 ein Raum zur Verfügung gestellt werden. Bei Interesse melden Sie sich bitte per E-Mail rechtzeitig im Büro der JGG! Aus Gründen der begrenzten Anzahl der zur Verfügung gestellten Räume und je nach Gegebenheiten des Veranstaltungsortes können unter Umständen nicht alle Wünsche berücksichtigt werden oder es kann Einschränkungen geben. Bei der Raumbenutzung muss der Antragsteller mit entstehenden Kosten rechnen.

Anmeldefrist: **Fr., 4. Dezember 2020**

E-Mail: **tagung2021tokyo_AT_jgg.jp** (_AT_ steht für @)

Die Beantragung soll folgende Angaben beinhalten:

- a) Name des Vereins / der Arbeitsgruppe:
- b) Name und Kontaktadresse des / der Verantwortlichen
(mit Telefonnummer und E-Mail-Adresse):
- c) Gewünschter Zeitraum (Uhrzeit von ... bis ...) am So., 6. Juni 2021
Möglicher Zeitraum: 13.15 bis 16.00 Uhr
- d) Verwendungszweck
- e) Teilnehmerzahl:
(darunter: Zahl der Mitglieder der JGG):

Geschäftliche Transaktionen sind nicht gestattet.

Nach Bearbeitung der Anmeldung wird der Antragsteller etwa einen Monat vor der Tagung über die Einzelheiten benachrichtigt.

September 2020

Vorstand der JGG

学会当日の受付用机・椅子の借用について

2021年春季研究発表会の会場において、受付用に机・椅子の借用をご希望の場合は、下記の要領でお申し込みくださるようお願いいたします。

記

申し込み方法

「机・椅子の借用申し込み」と記し、必要事項 a) ～ f) をご記入のうえ、電子メールでお申し込みください。

・申し込み期限：**2020年12月4日（金）[必着]**

・申し込み先：**tagung2021tokyo_AT_jgg.jp**（_AT_ は@）

（学会担当校宛ではありませんのでご注意ください。）

a) 団体または研究会の名称

b) 責任者氏名・所属先および連絡先（電話番号、メールアドレス）

c) 借用希望日と希望時間：1日目は10：00～17：30の間、

2日目は10：00～13：00の間

で具体的な時間をお知らせ下さい。

d) 使用目的

e) 机・椅子の借用希望数：机（通例2人掛け）_____ 卓 _____ 脚 _____

f) 受付アルバイトの手配を希望する場合は、その人数をお知らせください。ただしアルバイト代は団体・研究会がお支払い下さい。

◎ 商行為を行うことはできません。

◎ 詳細は団体・研究会の責任者にご連絡いたします。

2020年9月

Zur Beantragung von Infotischen auf der JGG-Frühlingstagung 2021

Vereine oder Arbeitsgruppen der JGG können auf Wunsch auf der JGG-Frühlingstagung 2021 einen Infostand aufstellen. Bei Interesse melden Sie sich bitte per E-Mail rechtzeitig im Büro der JGG! Aus Platzgründen und je nach Gegebenheiten des Veranstaltungsortes können unter Umständen nicht alle Wünsche berücksichtigt werden oder es kann Einschränkungen geben.

Anmeldefrist: **Fr., 4. Dezember 2020**

Adresse: E-Mail: **tagung2021tokyo_AT_jgg.jp** (_AT_ steht für @)

Die Beantragung soll folgende Angaben beinhalten:

- a) Name des Vereins / der Arbeitsgruppe:
- b) Name und Kontaktadresse des/der Verantwortlichen
(mit Telefonnummer und E-Mail-Adresse):
- c) Gewünschte/r Tag/e (erster bzw. zweiter Tagungstag oder beide Tage)
und gewünschter Zeitraum (Uhrzeit von ... bis ...)
(Möglicher Zeitraum am 1. Tagungstag: 10:00 bis 17:30, am 2. Tagungstag: 10:00 bis 13:00)
- d) Verwendungszweck
- e) Anzahl der benötigten (normalerweise zweisitzig) Tische und Stühle
- f) Studentische Hilfskräfte gewünscht?
(Die entsprechenden Kosten gehen zu Lasten des Antragstellers.)

Geschäftliche Transaktionen sind nicht gestattet.

Nach Bearbeitung der Anmeldung wird der Antragsteller über die Einzelheiten benachrichtigt.

September 2020

Vorstand der JGG

第 19 回日本独文学会・DAAD 賞選考への応募について

第 19 回日本独文学会・DAAD 賞の選考対象業績を下記の要領により募集します。ふるってご応募ください。

記

1 選考対象

日本独文学会員が執筆し、2020 年 1 月 1 日から 12 月 31 日までに刊行ないし印刷公表されたドイツ文学、ドイツ語学、ドイツ語教育、ドイツ語圏の文化・社会等に関する研究書および論文。自薦、他薦は問わない。なお、日本独文学会機関誌に掲載の論文は自動的に選考の対象となる。

2 部門と選考

次の部門ごとに設けられた選考委員会が、選考にあたる。

日本語研究書部門

ドイツ語研究書部門

日本語論文部門

ドイツ語論文部門

3 年齢制限

日本語研究書部門およびドイツ語研究書部門では特に年齢制限を設けないが、日本語論文部門およびドイツ語論文部門についてはドイツ語学文学振興会賞との重複を避けるため、論文の印刷公表年の 12 月 31 日現在で 36 歳以上の執筆者の論文に限る。

4 応募方法

当該の研究書または論文の原本 1 部を、論文部門の場合には執筆者の生年月日を明記の上（他薦の場合で生年月日が不明なら、その旨を記すこと）、下記宛てに 2021 年 3 月 31 日までに送付する。封筒には「学会賞応募」と朱書すること。

日本独文学会

〒170-0005 東京都豊島区南大塚 3-34-6-603

Tel: 03-5950-1147

5 選考結果の発表

2021 年度末頃に学会ホームページで公表する。

6 授賞件数

日本語研究書部門・ドイツ語研究書部門：それぞれ 1 件程度

日本語論文部門・ドイツ語論文部門：それぞれ 2 件程度

7 授賞式

授賞式において、受賞者に賞状と副賞を授与する。

授賞式は 2022 年春季研究発表会において行う。

第 62 回ドイツ文化ゼミナールについて

第 62 回ドイツ文化ゼミナール開催については、コロナウイルス感染拡大の状況を見つつ判断する。詳細が決定次第、学会ホームページにて告知し、参加者募集を開始する。

(文責：岡本和子)

第 25 回ドイツ語教授法ゼミナールについて

第 25 回ドイツ語教授法ゼミナール開催については、コロナウイルス感染拡大の状況を見つつ判断する。詳細が決定次第、学会ホームページにて告知し、参加者募集を開始する。なお、場合によってはオンラインによる開催も視野に入れる。

(文責：太田達也)

2020 年度ドイツ語論文執筆ワークショップの開催について

ドイツ語論文執筆ワークショップについては、コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み、今年度については中止といたします。来年度の以降の開催については、現時点では未定ですが、例年どおり 11 月か 12 月の時期に開催することを目指しております。詳細について決まりましたら、学会ウェブサイトにてお知らせいたします。

DAAD 奨学金についてのご案内

ドイツ学術交流会 (DAAD) は現在、下記の奨学金プログラムへの応募者を募集しています。応募締め切りや提出書類はプログラムによって異なりますので、詳細は DAAD のホームページから募集要項をご確認ください。
<https://www.daad.jp/scholarships>

① 研究奨学金 (長期)

対象：修士号を取得した又は取得見込みの方
給付期間：7～48 ヶ月 (2021 年 10 月～給付開始)
審査方法：1 次 (書類)、2 次 (面接：オンライン)
応募締切：2020 年 10 月 20 日

② 研究奨学金 (短期)

対象：修士号、博士号を取得した又は取得見込みの方、および若手研究者
給付期間：1～6 ヶ月
審査方法：書類審査のみ
応募締切：2020 年 11 月 16 日 (2021 年 4 月～給付開始)
2021 年 4 月 8 日 (2021 年 10 月～給付開始)

③ 留学奨学金

対象：全ての学部卒業生又は卒業見込みの方 (芸術分野を除く)
給付期間：10～24 ヶ月 (2021 年 10 月～給付開始)
審査方法：1 次 (書類)、2 次 (面接：オンライン)
応募締切：2020 年 10 月 20 日

④ 芸術留学奨学金

対象：芸術分野 (音楽・美術・建築など) の学部卒業生又は卒業見込みの方
給付期間：10～24 ヶ月 (2021 年 10 月～給付開始)
審査方法：書類・作品審査
応募締切：(建築) 2020 年 9 月 30 日
(音楽) 2020 年 10 月 1 日
(舞台芸術) 2020 年 10 月 30 日
(造形芸術・デザイン・映画) 2020 年 11 月 30 日

⑤ 大学教員・研究者のための研究滞在奨学金

対象：日本国内の大学・研究機関において職務についている博士号取得者

給付期間：1～3ヶ月

審査方法：書類審査のみ

応募締切：2020年10月5日（2021年3月～7月の間に給付開始）

2021年4月8日（2021年8月以降給付開始。滞在は最長2022年1月まで）

⑥ 元 DAAD 奨学生の再招待

対象：過去に6ヶ月以上 DAAD より助成を受けた者

給付期間：1～3ヶ月

審査方法：書類審査のみ

応募締切：2020年10月5日（2021年3月～7月の間に給付開始）

2021年4月8日（2021年8月以降給付開始。滞在は最長2022年1月まで）

⑦ 春期(HFK)・夏期(HSK)ドイツ語研修奨学金

対象：学部生（奨学金給付開始までに学部2年生を修了していること）、修士・博士課程在籍者

給付期間：約4週間

審査方法：書類審査のみ

応募締切：(HFK) 2020年11月初旬予定（給付時期：2021年春頃）

(HSK) 2020年12月初旬予定（給付時期：2021年夏頃）

新型コロナウイルスの影響により、今後募集内容に変更がある可能性もありますので、最新情報は常に DAAD 東京事務所のホームページ（www.daad.jp）をご確認ください。

何かご不明な点がございましたら、kurushima@daad.jp までお問い合わせくださいませ。

以上、何卒宜しく願いいたします。

DAAD-Stipendienprogramme

Derzeit sind folgende Stipendien ausgeschrieben. Bitte entnehmen Sie weitere Informationen zum jeweiligen Programm der Webseite des DAAD Tokyo: <https://www.daad.jp/scholarships>

1. Forschungsstipendien (lang)

Zielgruppe: Doktorand*innen

Dauer der Förderung: 7-48 Monate

Auswahlverfahren: Papierauswahl & Interview (online)

Bewerbungsfrist: 20.10.2020

2. Forschungsstipendien (kurz)

Zielgruppe: Doktorand*innen und Postdocs

Dauer der Förderung: 1-6 Monate

Auswahlverfahren: Papierauswahl

Bewerbungsfrist: 16.11.2020 oder 08.04.2021

3. Studienstipendien – Masterstudium für alle wissenschaftlichen Fächer

Zielgruppe: Graduierte

Dauer der Förderung: 10-24 Monate

Auswahlverfahren: Papierauswahl & Interview (online)

Bewerbungsfrist: 20.10.2020

4. Studienstipendien – Masterstudium für künstlerische Fächer

Zielgruppe: Graduierte eines künstlerischen Fachbereiches

Dauer der Förderung: 10-24 Monate

Auswahlverfahren: Papierauswahl & Einreichen einer Arbeitsprobe

Bewerbungsfristen: Architektur: 30.09.2020

 Musik: 01.10.2020

 Darstellende Kunst: 30.10.2020

 Bildende Kunst, Design und Film: 30.11.2020

5. Forschungsaufenthalte für Hochschullehrer und Wissenschaftler

Zielgruppe: Hochschullehrer*innen und Wissenschaftler*innen, die an einer japanischen Hochschule tätig sind

Dauer der Förderung: 1-3 Monate

Auswahlverfahren: Papierauswahl

Bewerbungsfristen: 05.10.2020 oder 08.04.2021

6. Wiedereinladung ehemaliger DAAD-Stipendiaten

Zielgruppe: ehemalige DAAD-Stipendiat*innen, die mehr als sechs Monate individuell gefördert wurden

Dauer der Förderung: 1-3 Monate

Auswahlverfahren: Papierauswahl

Bewerbungsfristen: 05.10.2020 oder 08.04.2021

7. Hochschulfrühlings- und Hochschulsommerkurse (HFK/HSK)

Zielgruppe: Bachelorstudierende, die bis zum Förderbeginn mind. zwei Hochschuljahre abgeschlossen haben, Graduierte und Doktorand*innen

Dauer der Förderung: ca. 4 Wochen

Auswahlverfahren: Papierauswahl

Bewerbungsfrist: Anfang November (HFK)
 Anfang Dezember (HSK)

Bitte beachten Sie, dass aufgrund der unvorhersehbaren weiteren Entwicklung der COVID-19-Pandemie kurzfristig Änderungen bezüglich der oben genannten Angaben vorgenommen werden können. Aktuelle Informationen finden Sie auf der Website der DAAD-Außenstelle Tokyo (www.daad.jp). Bei weiteren Fragen steht Ihnen Herr Kurushima (kurushima@daad.jp) gern als Ansprechpartner zur Verfügung.



「多言語教育の意義とは？－外国語教育・学習研究に関する国際シンポジウム」

2020年10月31－11月1日

開催のお知らせ

2020年10月31日 - 11月1日にドイツ学術交流会（DAAD）とゲーテ・インスティトゥート東京は、多言語教育の意義を考える外国語教育・学習研究に関する国際シンポジウムを開催します。日本独文学会会員のみならずにもぜひご参加いただきたく、ご案内申し上げます。このシンポジウムは、桜美林大学孔子学院、アンスティチュ・フランセ日本、フランス大使館、インスティトゥート・セルバンテス東京、駐日韓国文化院の協力のもとおこなわれます。

このシンポジウムでは、日本そして他国で英語以外の外国語を今日なお学ぶ意義を一般の方に広く知っていただく一方で、外国語教育・外国語学習研究の知見を見据えつつ、文学・言語学・文化学といった伝統的な専門分野とならんでこれらの研究がいかに重要であるかを示したいと考えております。

さらに、日本で英語に次いで最も多く学ばれている中国語、韓国語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、の5言語による相乗効果を生み出し、強めることも目指しています。

シンポジウムは、一般の方にご参加いただける全体会を、オンラインで行います。使用言語は日本語と英語の同時通訳つきです。詳細につきましては以下をご覧ください。

日本語:

<https://www.daad.jp/tagengo2020>

https://www.goethe.de/ins/jp/ja/sta/tok/ver.cfm?fuseaction=events.detail&event_id=21937168&

ドイツ語/英語:

https://www.goethe.de/ins/jp/de/sta/tok/ver.cfm?fuseaction=events.detail&event_id=21937168

<https://www.daad.jp/mehrsprachigkeit2020>



Einladung

International Symposium on Foreign Language Teaching and Learning Research:

What are the benefits of learning multiple languages?

October 31 – November 1, 2020

Am 31. Oktober und 1. November 2020 veranstalten das Goethe-Institut Tokyo und der Deutsche Akademische Austauschdienst (DAAD) Tokyo ein internationales Symposium im Bereich Fremdsprachenlehr- und -lernforschung zum Thema Mehrwert von Mehrsprachigkeit, zu dem wir die Mitglieder der JGG herzlich einladen möchten. Die Veranstaltung wird in Zusammenarbeit mit dem Confucius Institute, dem Institut Français du Japon und der Französischen Botschaft, dem Instituto Cervantes und dem Korean Cultural Center organisiert.

Ziel des Symposiums ist es, einerseits öffentlichkeitswirksam darzustellen, warum es sich auch heute (in Japan und allgemein) noch lohnt, Fremdsprachen außer Englisch zu lernen, und andererseits ein Plädoyer für die Erkenntnisse entsprechender Forschungsrichtungen und deren Wichtigkeit neben den traditionellen philologischen und kulturwissenschaftlichen Fachdisziplinen abzulegen. Auch die Synergien zwischen den in Japan beliebtesten fünf zweiten Fremdsprachen nach Englisch – Chinesisch, Französisch, Koreanisch, Spanisch und Deutsch – sollen auf diese Weise gestärkt werden.

Das Symposium wird als virtuelle Veranstaltung mit öffentlich zugänglichen Plenarteilen stattfinden. Die Veranstaltungssprachen sind Englisch und Japanisch (mit Simultanübersetzung). Weitere Informationen finden Sie hier:

Japanisch:

<https://www.daad.jp/tagengo2020>

https://www.goethe.de/ins/jp/ja/sta/tok/ver.cfm?fuseaction=events.detail&event_id=21937168&

Deutsch/Englisch:

https://www.goethe.de/ins/jp/de/sta/tok/ver.cfm?fuseaction=events.detail&event_id=21937168

<https://www.daad.jp/mehrsprachigkeit2020>

会費納入について

会員の皆様におかれましては、すみやかな会費納入にご協力いただきありがとうございます。ありがとうございます。

事務局では会員お一人お一人の会費ご納入に関して、年間を通じ必要に応じてご連絡を差し上げています。その際にご理解、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

また、以下の点をご確認ください。

【会費割引制度】

前年度末までに 80 歳になられた方、常勤職をお持ちでない方、学生の方は、ご本人からのお申し出によって、年会費の割引を受けられます。会費規程をご確認の上、事務局までお申し出ください。

【口座自動振替によるご納入】

口座自動振替のお申込みは随時受け付けています。まだお申込みでない方は是非ご検討ください。申込書をお持ちでない方は事務局までご連絡ください。お申込みくださった時点でその年度の手続き締切りに間に合わなかった場合は、自動的に次年度開始の扱いとなります。その年の年会費は振込にてご納入くださるようお願い致します。

振替日は年に一度のみ、毎年 7 月 1 日（1 日が土日の場合は 2 日または 3 日）です。すでにご登録の方は事前に口座残高をお確かめいただけますと幸いです。7 月 1 日に振替ができなかった場合は、改めて郵便振込をお願いしています。

振替口座等の変更や年会費割引をご希望の場合は、4 月末までに事務局にご連絡ください。

【郵便振込によるご納入】

口座自動振替をお申込みいただいてない方には、5 月から夏にかけて学会年会費納入のお願いと払込取扱票をお送りする予定です。

以上、よろしくようお願い申し上げます。ご不明の点、ご質問は事務局（TEL./FAX：03-5950-1147, Mail フォーム：<http://www.jgg.jp/mailform/buero/>）までお問い合わせください。

日本独文学会事務局

一般社団法人日本独文学会会費規程

(目的)

第1条 この規程は、定款第7条の規定に基づき、入会金及び会費の納入に関し、必要な細則を定めるものとする。

(入会金)

第2条 会員は入会金として1,000円を納入しなければならない。

(入会金の納期)

第3条 入会金は、この法人から入会承認の通知を受けた日から30日以内に納入しなければならない。

(会費)

第4条 会員は、次の会費(年額)を納入しなければならない。

正会員 10,000円

賛助会員 30,000円(学术交流団体など非営利団体の場合10,000円)

(会費の納期)

第5条 会員は、当該事業年度開始の7月末日までに、会費年額の全額を納付しなければならない。

(会費の減免)

第6条 4月1日現在で常勤職を持たない正会員の当該年度会費は、本人の申告に基づいて8,000円とする。

- 2 4月1日現在で大学・大学院およびこれに準ずる教育・研究機関に在学する正会員の当該年度会費は、本人の申告に基づいて5,000円とする。申告は、6月1日までに学生証ないしはそれに相当する証明書のコピーを郵送もしくはファックスで学会事務局に提出することによって行うものとする。
- 3 4月1日現在で満80歳以上の正会員の年度会費は、本人の申告に基づいて5,000円とする。申告は6月1日までに行うものとする。
- 4 会費の減免は申告が受理された年度から適用し、遡って適用されることはない。
- 5 常勤職を持たない正会員が常勤職に就いた場合は、身分が変わった直後の4月20日までに身分の変更を学会事務局に届け出るものとする。
- 6 大学・大学院およびこれに準ずる教育・研究機関に在学する正会員の身分に変更があった場合は、身分が変わった直後の4月20日までに身分の変更を学会事務局に届け出るものとする。

(使用目的)

第7条 入会金及び会費は次の各号に定める事項に使用する。

- (1) 本会の運営
- (2) 本会の機関誌等の発行

(細則)

第8条 この規程に定めるもののほか、この規程の実施に必要な事項は、理事会の決議により別に定めることができる。

(改廃)

第9条 この規程の改廃は、総会の決議による。

独検存続危機にともなう緊急支援ご寄付（賛助金）のお願い

平素よりドイツ語学文学振興会にご高配を賜り、衷心より拝謝申し上げます。

ドイツ語学文学振興会は、ドイツ語圏の語学・文学・文化の振興を目的として1960年に創設され、ドイツ語学文学振興会賞の授与、機関誌の発行、刊行助成や研究会助成の供与を行い、ドイツ語技能検定試験（独検）を運営・実施している公益財団法人です。

独検は、1級から5級（準1級を含む）までの六つの級を設置し、各級の能力評価基準をもとにドイツ語学習者の学習到達度の測定や学習成果の評価などの指標とされてきました。すでに30年近くの実績を積み、ドイツ語学習者やドイツ語教育関係者に広く認知されるまでになりました。受験者は10歳未満から90歳代の幅広い年齢層に渡り、これまでの出願者の累計は約39万人以上を数えます。

しかしながら、コロナ禍により2020年夏期独検を中止することを余儀なくされました。その損失は大きく、全収益の約35%に当たる約2500万円の大半が失われました。現在のところ、当面の運転資金調達のために振興会のわずかな財産を切り崩す措置を講じています。今年度冬期独検が実施できたとしても、冬期試験経常収益4400万円にはほど遠く、大変厳しい状況になることが予想されます。

このような振興会存続の危機が続けば、長く積み上げてきた実績を廃止せざるを得なくなります。これまでドイツ語学文学振興会賞を60回授与し、刊行助成は43冊を数え、毎年春季・秋季の日本独文学会研究発表会及び3ゼミナールや研究会を助成し、日本におけるドイツ語圏研究の普及・発展の一助を担ってまいりました。また独検は受験者にとってドイツ語学習の目標の一つであるとともに学習のモチベーション維持にもつながるものでもあり、日本語母語話者を対象としたドイツ語能力検定試験の資格を認定する唯一の機関として存続することは、日本におけるドイツ語教育を支える社会的責任の一環でもあると思われまます。資格保有者にとっては資格を保証する機関としての役割もあります。

折しも今年度は本振興会創設60周年を迎えます。当初とはドイツ語教育が置かれている状況は異なりますが、以前にも増してドイツ語学習者を支え、ドイツ語圏の文学や文化の普及・発展に努め、広く日本の社会に貢献する所存であります。

本会は会員制をとっていないため、「会員」は存在せず、したがって会費収入もありません。設立当初より、一般のドイツ語教育関係者の方々からのご寄付（賛助金）、そして独検の受験料によってすべての事業をまかなっております。2012年に公益財団法人に移行してからは、内部留保は認められない体制となり、繰越金

のすべては原則として公益事業およびその準備のために使われてまいりました。独検の収入がほぼ断たれております現在、存続危機の渦中にある振興会に対しまして皆様からの温かい御支援を賜りますよう切にお願い申し上げます。

ご寄付(賛助金)の振り込みにつきましては振興会ウェブサイトをご覧ください。ご寄付の申し込みは、<http://www.dokken.or.jp/foundation/> までお願いいたします。

2020年9月1日

公益財団法人 ドイツ語学文学振興会
理事長 新倉真矢子

第 17 回日本独文学会・DAAD 賞日本語部門審査報告

当賞日本語部門選考委員会は、2019年7月31日に第1回、同10月5日に第2回の委員会を開催した。会場はともに早稲田大学早稲田キャンパス内である。

選考委員は荒又雄介、木村護郎クリストフ、寺尾格（副委員長）、星井牧子（運営委員）、武井隆道（委員長）の5名である。

今回審査対象となったのは、論文部門5点、研究書部門1点であった。

第1回委員会では、審査の方法を協議し、選考委員全員が全作品を査読すると同時に、各委員それぞれの研究領域に近い作品に関して、報告責任者となること、また各自それぞれの作品を5段階評点で評価することを申し合わせた。

第2回委員会では、報告・評価並びに討論を行い、その結果以下の結論で合意した。

論文部門では、次の1点を学会賞候補として推薦する。

針貝 真理子：都市の声、餌食の場所——ルネ・ポレシュ『餌食としての都市』における「非場所」の演劇（『ドイツ文学』156号）

研究書部門では、該当なし。

以下に推薦理由を述べる。

授賞対象論文、針貝真理子『都市の声、餌食の場所——ルネ・ポレシュ『餌食としての都市』における「非場所」の演劇』（『ドイツ文学』156号所収）は、ドイツの演出家ルネ・ポレシュの研究が、日本においても本格的に始まったことを告げる、意義の大きい業績である。

ポレシュが注目されるようになったのは2000年代に入ってからであるが、それまでとはまったく異なる演劇表現で、今日までドイツの演劇界に強い「とまどい」とインパクトを与えてきた。すでに日本でも一定の紹介があり、一部で注目は浴びていたものの、さらに深いレベルの研究へとようやく本格的に歩み出したことを、針貝氏の論考は示している。

ポレシュの実質的なデビュー作である『餌食としての都市』の示した「わかりにくさ」を、グローバル資本により「自己搾取」化された現代社会の、社会の側からの意図的な「抵抗の策略」と位置付けて、演劇テキストと身体との関係性の視点から具体的に分析を進めている。その分析は丁寧にして、しかも徹底的であり、時にスリリングとすら言える。そして「都市」との強い親和性を保つ演劇/劇場という「非場所」を現実化するのが舞台だとすれば、その舞台がそれゆえに持つ固有の虚構性を、俳優の「身体」、とりわけ「声」という具体的な演劇表現との関連性において説得的に展開する。論考としての完成度が高いとともに、現代に

おける新たな「政治演劇」の可能性をも示唆しており、短い論考であるにもかかわらず、個々の論点の持つ視界は遠方にまで及んでいる。

ひとつの作品に焦点を絞った今回の論考を出発点に、本論文の著者がポレシユ自身のその後の展開、あるいは同様に重要な他の諸作家との関連等へと、研究対象をさらに広げていくことを期待するものである。

他の論文については個別に論評することは避けるが、データに基づく実証性と、価値観に基づく解釈の間関係づけが必ずしも説得的ではないと思われる例がいくつか見られた。価値観に基づく仮説はパラダイムの設定上必要でもあり、必ずしも排除されるものではないが、ややもするとデータから読み取れる事象を狭い視野で限定してしまう危険を孕んでもいる。このことは、今後発展が期待される社会・文化領域での研究において特に留意されるべきであろう。

第 17 回日本独文学会・DAAD 賞審査報告（ドイツ語部門）

ドイツ語部門審査報告

選考委員：高木繁光，高田博之，田邊玲子，Bettina Gildenhard（DAAD），林良子（副委員長），河崎靖（運営委員），清水穰（委員長）

審査対象：研究書部門 1 点，論文部門 10 点

選考委員会と選考の過程：

第 1 回 2019 年 7 月 27 日（京都大学）。第一次審査の手順を決定し，対象 1 点につき 2～3 人の委員が査読を行うことにして，語学 DaF 系の委員と文学思想系の委員で，それぞれ論文及び書籍を分担した。

第 2 回 2020 年 1 月 11 日（大学コンソーシアム京都）。論文と研究書をひとつひとつ担当の選考委員が説明し，議論の上，第 2 次審査の対象を決定した。第 1 次審査を通過した研究書 1 点，論文 2 点について選考委員の全員が目を通すこととした。

第 3 回 2020 年 1 月 25 日（同志社大学）。最終的な説明と評価を行い議論した結果，下記研究書 1 点のみを学会賞候補として推薦することに決定した。

Yoshihiko HIRANO:

**Miszellaneen zu Celan. Entwürfe zu Naturgeschichte und Anthropologie.
(Würzburg: Königshausen & Neumann Verlag 2018)**

推薦理由

本書はツェラーンにおける植物学的，動物学的，人間学的史学の多様な断片的総体と取り組みながら，ツェラーンの著作およびマールバッハ・ドイツ文学アーカイブ保管の遺品蔵書を基に，「ツェラーンがその生涯において追いかけて，対決した同時代のいくつかの学問体系を素描し，解明するとともに，それとの関連において彼の詩作品を解釈し，位置づけようとする」，平野氏の長年のツェラーン研究の集大成と呼べるものである。

本書における「自然・史学」とは，ベンヤミンがバロック文学から読み取った「土星的眼差し」のもとで死相において観照される「自然」の静止状態の「歴史」である。それゆえ，ツェラーンにおける植物学は，バロック作家のそれと同様，

すでに死の影にあるものとして現れる。このような植物学的風景に沿って展開されるツェラーンの詩的トポスの探求は、「雪の境域」＝死の領域へと向かいつつ、転回する子午線の軌跡を描くことを、著者は個々の死の綿密な解釈をとおして記述してゆく。

ツェラーンにおける動物学的史学もまた、カフカのそれと同様、「メランコリカー」の眼差しをとおして、忘却され、歪められた「被造物」に注意を注ぎ、記憶にとどめようとする。それは種としての分類を目的とする学術的自然科学の営みが失効した領域で、擬人化された動物と動物化された人間が同一平面で向かい合う新たな脱人間中心主義的人間学を創出する試みであり、忘却され、けして経験も、認識もされえないものと「一回かぎり」、「アナムネーシス」の崩壊と引換えに再会しようとする、狂気と境を接した「プシュケーの人間学」とも呼ばれる。

狂気と境を接した「メランコリー」への強い関心は、とくにツェラーンの後期作品に影響を与えているが、この「狂気の人間学」への転回は、フロイトの『快樂原則の彼岸』をハイデッガーの死に関する思索と結びつけ、これと対決することから準備されたと著者は指摘する。「自己との隔たり」、「自己・異化」の過程としての狂気は、ビューヒナーの『ヴォイツェック』においてもそうであったように、なによりも聴覚的音素、幻聴、声として聴取されるが、その狂気のもつ人間学的意味を認識しようとする「私」の試みは、自身が狂気に囚われることによつてたえず破綻せざるをえない。

にもかかわらずツェラーンが、狂気の「真実」を聴き、狂気という「現実」を生きようとするのは、それがショアーと結びついた「死の人間学」と関わるものだからである。それは大量殺戮によって固有の死を抹消されたユダヤ人の、闇に閉ざされた沈黙を、その都度、一人の死者の声として聴取し、大量死の匿名性から一個の「石」として差異化しようとする絶望的試みにほかならない。

本書は、今後のツェラーン研究における多様な探求の方向性・可能性を示し、多くの示唆を与えるものとして、新たな出発点となることは疑いなく、本賞を授与するに相応しいと考える。(文責 高木繁光)

受賞の弁 日本語論文部門

針貝真理子

このたびは第 17 回日本独文学会・DAAD 賞に選んでいただき、大変光栄に存じます。現代演劇という、独文学の枠組みではなかなか理解されにくい分野にも光を当ててくださった選考委員の方々、またこれまで主にドイツ語で研究を行っていた私の拙い日本語に接する労を厭わず、有意義な提言を下された査読者の方々、厚意からご助言下さった方々に、あらためて深く感謝申し上げます。

受賞論文で取り上げた人物、ルネ・ポレシュが手がける喜劇は、DAAD の奨学生として 2008 年からの 3 年間でベルリンで過ごし、演劇三昧の日々を送った私を最も強く惹きつけたもののひとつでした。その当時から、いつかポレシュについて書きたいという思いを抱えていたのですが、その力点を言葉にするのがこれほど難しい演劇はなく、最初の出会いから 10 年以上を経てようやく、ひとつ形にすることができました。

そのポレシュ演劇を独文学会という場で言語化するにあたり、私がまず試みたのは、再現表象不可能な演劇テキストで演劇史の変革を促したハイナー・ミュラーを糸口に、ポレシュをドイツ文学史に接続することでした。ただしポレシュは決して、単なるミュラーの亜流ではありません。ミュラーが向きあったのが共産主義国家終焉の時代であったのに対し、ポレシュ喜劇が対峙するのは、歯止めを失った資本主義による新自由主義の時代ですが、彼はこの時代を描くにとどまらず、その流れの内側から抵抗する術としての演劇を模索し続けています。

そして現在、私たちは再び歴史の岐路に立たされていると言えるでしょう。本賞受賞の連絡を受け取ったのは 2020 年 2 月中旬のことでしたが、それは奇しくも、Covid-19 の世界的流行が始まった時期でした。パンデミックによる未曾有の不況は真っ先に弱者を襲い、資本の投入によるメディア操作ではもはや覆い隠せない社会の歪みが剥き出しになりました。新自由主義的な競争社会を維持して敗者を切り捨てるのか、福祉社会へと舵を切って苦難を共にする道を探るのか、その狭間で現在多くの国々や自治体が揺れています。どのような道を選択するにせよ、新自由主義というイデオロギーを様々なかたちで可視化してきたポレシュ演劇は、岐路に立たされた私たちの大きな手がかりとなるはずです。私の小論が、その一助となることを願ってやみません。

(東京藝術大学准教授)

受賞の弁 ドイツ語研究書部門

平野 嘉彦

ツェラーンの詩を読みはじめたのは、たしか1969年の夏のことだった。大学院の博士課程に進学したものの、紛争で校舎が封鎖されて、授業もおこなわれていなかった。そうした日々に、黒い表紙に金文字を配した *Mohn und Gedächtnis* と *Von Schwelle zu Schwelle* の薄い二冊の詩集を手にとった。とりたてて解釈をするわけでもなかった。のちのツェラーンの詩行からは消えうせていく、のびやかに変転する言葉の響きに、ただ聴きいつているばかりだった。もっとも、そこにははや死の影がさしていた。そして、翌年の初夏のころに、詩人の自死の知らせを耳にした。はたして、という思いだった。

今年、2020年は、ツェラーンの生誕100年、かつ没後50年にあたる。かえりみるとほぼ半世紀のあいだ、ツェラーンの詩を読みつづけてきたことになる。しかし、はたして、読みつづけた、といえるのだろうか。いずれにせよ、その詩に対する仕方は、当初のそれとは一変した。ドイツ語の詩であれ、意識せぬまま、内心で母語に訳しかえて受容している、その内なる日本語を、これらの言葉は異化してやまなかった。日本語でツェラーンについて書いたある論文のなかで、その異様さに、「これは詩なのだろうか」と、呟くように書きつけたことがある。そうした「詩」を解釈する言葉も、やがて強いられるようにドイツ語になり、その行文は、いかにも論証的になるよりほかはなかった。

本書に収めた初出の論文がきっかけで、学恩ある人とも疎遠になった。遅ればせながらその逝去を知ったときには、すでに一年近くの月日を閲していた。なお生者であるかのように、巻末の謝辞に記したお名前に十字の印を付していない所以である。

ツェラーンについてドイツ語で上梓した最初の研究書は、思いもかけず2013年度の日本オーストリア文学会賞を受ける栄に浴した。さらに年を経て、わが身もまた齢をかさねて、今般、この二冊目の著書で、日本独文学会・DAAD賞をいただくことになった。老い先短い者の眼には、さながら冥途の土産と映る。それだけに、蕪雑なままに偏してやまぬ本書にかかずらうことを余儀なくされた選考委員各位のご労苦に、申しわけなく、かつありがたく思う次第である。

(東京大学名誉教授)

日本独文学会 2020 年春季研究発表会報告

2020 年 6 月 6-7 日、東京大学において、シンポジウム 4 本、口頭発表 19 本、ブース発表 1 本、ポスター発表 3 本、ドイツ語教育部会総会、ドイツ語教育部会による「大学ドイツ語入試問題検討委員会」展示発表、第 17 回日本独文学会・DAAD 賞授賞式、第 60 回ドイツ語学文学振興会賞授賞式、書店・出版社による各種展示などが予定されていたが、コロナウイルス感染拡大による非常事態宣言の発令を受けた 4 月 7 日の理事会決定により東京大学会場での発表会の実施は中止となった。希望する 4 人の発表予定者が発表原稿の Web 公開を行った。2020 年 6 月 22-28 日のあいだ日本独文学会ホームページにて限定公開した。多数の閲覧があり、活発な質疑応答が見られた。

企画担当

第 62 回ドイツ文化ゼミナール報告

新型コロナウイルスの感染拡大の状況に鑑み、第 62 回ドイツ文化ゼミナール（当初予定：2020 年 3 月 15 日-20 日、於リゾートホテル蓼科）、および、ゼミナール前後に予定されていた招待講師による講演会は中止となった。

今後のドイツ文化ゼミナール開催については、新型コロナウイルス感染拡大の状況を見つつ判断する。開催可能となった場合には、2020 年に予定していた招待講師とテーマ（ベルリン自由大学 Hans Richard Brittnacher 教授，テーマ：Die Phantastische Literatur）を引き継ぐ予定である。なお、開催方法等についてはさらに検討を続ける。

（文責：岡本和子）

第 25 回ドイツ語教授法ゼミナール報告

第 25 回ドイツ語教授法ゼミナールは 2020 年 3 月 20 日から 23 日にかけて多摩永山情報教育センター（東京都多摩市）にて開催される予定であったが、コロナウイルス感染拡大による影響のため、開催中止となった。予定されていた招待講師はビーレフェルト大学の Uwe Koreik 教授で、「ドイツ語の授業における歴史の活用-言語習得と視野の拡大（Geschichte im Deutsch-als-Fremdsprache-Unterricht – Spracherwerb und Horizonterweiterung）」をテーマとしたゼミナールとなる予定であった。

今後の教授法ゼミナール開催については、コロナウイルス感染拡大の状況を見つつ判断する。事態が収束すれば、招待講師とテーマは予定通りのまま、2021 年あるいは 2022 年に開催する方向で検討する。ただし、場合によってはオンラインによる開催も視野に入れる。

（文責：太田達也）

2019 年度ドイツ語教員養成・研修講座報告

1. 本講座の運営について

ドイツ語教育部会、東京ドイツ文化センターとの共催で開催している「ドイツ語教員養成・研修講座」は、2019年10月から慶應義塾大学日吉キャンパス（関東会場）と甲南大学岡本キャンパス（関西会場）の2会場をテレビ会議システムで結ぶかたちで行っている。なお、今期から Zoom により会場外からの参加も可能となっているが、コロナ禍の影響により、2020年4月以降のすべてのワークショップを Zoom により開催している。受講者は、ワークショップへの参加に加え、各モジュールのテーマについてレポートを作成し提出することが求められる。また、専用のプラットフォームである Moodle 上では、受講者同士、また受講者と講師の間でドイツ語教育をめぐるディスカッションが展開され、受講者・講師双方にとって、ドイツ語教育について再考する刺激的な議論の場となっている。

2. 2019 年秋開講のコースについて

2019年秋開講のコースは、前期が2019年10月から2020年7月までの8回のワークショップで7モジュール、後期が2020年10月から2021年9月までの8回のワークショップで4モジュールならびに *Deutsch Lehren Lernen*（以下 DLL）の課題、計11のモジュールからなる。前期コースには18名（関東会場10名、関西会場8名）の受講者が参加し、2020年7月の時点で第8回ワークショップまで終了した。

後期コースのワークショップ開催予定ならびにモジュールのテーマは以下のとおりである。

後期コース(2020年10月—2021年9月)

ワーク シヨッ プ	日付	ワークショップとモジュールのテーマ	
		前半	後半
1	10月	外部講師による講演	M8: 様々なメディアと ICT の導入
2	11月	DLL 導入ワークショップ	
3	12月	M8 のレポートの評価と 討論	M9: テストと評価
4	1月	M9 のレポートの評価と 討論	DLL4 PEP の準備
5	4月	DLL4 PEP の準備	M10: 動機づけと意識調査
6	5月または 6月	Praxiserkundungsprojekt (PEP) プレゼンテーション	
7	7月	M10 のレポートの評価と 討論	M11: カリキュラムとシラバ ス
8	9月	M11 のレポートの評価と 討論	講座の総括

日本独文学会研究叢書既刊一覧

- Nr. 138 Gefühlsunordnungen. Heinrich von Kleist und die romantische Ökonomie der Affekte
[感情の無秩序ーハインリヒ・フォン・クライストと情動のロマン主義的エコノミーー]
編集者: Thomas Pekar・Thomas Schwarz
執筆者: Yixu Lü, Thomas Pekar, Arne Klawitter, Hirosuke Tachibana, Thomas Schwarz
発行日: 2020. 6. 6
- Nr. 139 創作システムとしての翻訳
[Übersetzung als kreatives Schreibverfahren]
編集者: 新本史斉
執筆者: 松永美穂, 山本浩司, 新本史斉, 齋藤由美子, 関口裕昭
発行日: 2020. 6. 6
- Nr. 140 統語と意味のインターフェイスをめぐってーカートグラフィーの射程ー
[Schnittstelle der Syntax und Semantik. Reichweite der Kartographie]
編集者: 森芳樹
執筆者: 伊藤克将, 山崎祐人, 藤井俊吾, 岡野伸哉, 宮田瑞穂&森芳樹
発行日: 2020. 6. 6

支 部 報 告

北海道支部

○7月11日開催予定だった第88回研究発表会が取りやめとなった。

○北海道大学では警戒レベルが引き下げとなっている。秋以降は状況を含みながらの判断になるが、幹事会も対面での開催を検討している。また例年12月に開催している冬学会については、役員改選もあり、対面での開催を念頭に置いている。北海道大学で大規模な教室を借りて実施することができればというのが現在の目論見である。

○7月23日時点での会員数は66名である。

東北支部

○東北ドイツ文学会第62回研究発表会が2019年11月9日（土）東北大文学部にて開催された。

1. 書簡体小説のディスクール — 『若きウェルテルの悩み』と『危険な関係』
における語りの構造 清水翔太
2. 祖国オーストリアはどこにあるのか — ヨーゼフ・ロート『ラデツキー行進曲』に見られるオーストリアの様相 小原森生
3. 東北地方におけるグリム童話の再土着化事例について 川村和宏
4. ドイツ近代小説の出発点としての『ヴィルヘルム・マイスターの修行時代』と『宵の明星』 嶋崎順子
5. バッハとヘンリーツィ（ピカンダー）の『マタイ受難曲』 渡辺美奈子

○2020年秋に『東北ドイツ文学研究』第61号発刊予定。

○2020年東北ドイツ文学会第63回研究発表会については、新型コロナウイルス感染症のため開催方法を含め検討中。

北陸支部

○2020年2月に『ドイツ語文化圏研究』第16号を発行した。

東海支部

○2020年度日本独文学会東海支部総会・夏季研究発表会

2020年7月11日(土)に予定されていた夏季研究発表会は、新型コロナウイルスの感染拡大を受け開催中止となった。なお、冬季研究発表会(合評会・総会・研究発表会)については、2020年12月12日(土)にオンラインにて開催する予定である。

○支部会員数117名(2020年8月1日時点)

京都支部

○日本独文学会京都支部2020年度春季研究発表会(WEB開催)

閲覧・視聴/質問受付期間:6月27日(土)10:00~7月5日(日)17:00

質問・回答内容の閲覧期間:7月15日(水)~7月24日(金)

会場のURL: <https://jggkyoto.org/meetings.html>

発表方式:PDF方式/動画方式

参加者数:45名(事前申し込み制)

研究発表

1. コーパス調査に基づく姿勢動詞 *stehen* と *liegen* の所在用法
岡部 亜美(京都大学大学院生)
2. シュテファン・ツヴァイク『永遠の兄の目』における「孤独」のイメージについて
籠 碧(三重大学)
3. ムージルのクラーゲス受容における「自然」の表象とその変容
津田 拓人(京都大学大学院生)

○学会誌『Germanistik Kyoto』について

2000年より年1回刊行。2020年9月頃に第21号刊行予定。

2019年発行の第21号掲載論文は次の通りである。

レーナウと検閲

—『ドン・ファン』における三月前期の時代徴標について—

児玉 麻美

詩と社会をめぐるエンツェンスベルガーの問題圏, 『点字』から『時刻表』へ
—テーオドル・アドルノへの批判的応答—

橋本 紘樹

○「読み切りブックレット・ドイツの文化」について

2016年度から始まった事業で、京都支部がゲルマニスティクに関する学術業績を広く社会に紹介するために刊行するブックレット。応募資格者を専任職のない支部会員に限定し、一刷の費用を支部が助成。2019年度からは翻訳も対象としている。2020年5月に第2巻を発行。

勝山紘子『越境する身体—グロス, ディックス, デーブリー—』

○秋季研究発表会・総会・支部役員選挙は以下の期間にWEBならびにリモートで開催予定。

閲覧・視聴期間【PDF方式・動画方式】:

12月5日(土)10:00~12月12日(土)12:00(予定)

質疑応答/総会/選挙【リモート方式】:12月12日(土)13:30~(予定)

○2020年度支部役員

支部長:松村朋彦(京都大学)

支部選出理事:河崎靖(京都大学)

編集委員:田原憲和(立命館大学), 藤原美沙(京都女子大学)

渉外広報委員:青地伯水(京都府立大学), 羽根田知子(京都外国語大学)

会計委員:熊谷哲哉(近畿大学)

庶務委員:児玉麻美(大阪府立大学), 吉村淳一(滋賀県立大学)

○2020年8月21日現在の会員数は147名

阪神支部

○2020年3月25日に機関誌『ドイツ文学論攷』第61号(全132ページ)を発行した。掲載論文・書評等は以下のとおり。

◆論文

・竹田和子: E. マルリット作品に描かれた「家」の崩壊とその社会的背景—『商業顧問官の家』と『石榴石の髪飾りの女』を中心に

・林英哉：児童文学で描かれた T4 作戦—ナチス・ドイツにおける障害者の安楽死政策と『アントン』(2004)

・MASUMOTO, Hiroko: Der Übersetzungsbegriff in Yoko Tawadas Frühwerk

◆寄稿

・STAHL, Henrieke: Das weltoffene Subjekt und die Übersetzung aus der Natur als Antwort auf das Anthropozän in der neueren Lyrik (Gennadij Ajgi, Les Murray, Christian Lehnert)

◆書評

・阪井葉子(著), 三谷研爾(編):『戦後ドイツに響くユダヤの歌—イディッシュユ民謡復興』

横山香

○2020年4月4日に関西大学で開催予定だった総会・研究発表会につき、新型コロナウイルス感染症の感染予防・拡散防止のため、総会は延期、研究発表会については中止とした。

○2020年6月20日に大阪府立大学で開催予定だった総会・研究発表会についても開催を見送り、以下のように対応した。

○第70回総会

議案、各幹事からの報告および予算案を会員に書面にて送付し、質問・意見をインターネット上で受けつけた。下記の第232回研究発表会(オンライン)の冒頭で、書面審議の結果について説明と報告を行ない、総会議事を確定した。

○第232回研究発表会

日時：2020年7月11日(土)13:30～(オンライン開催)

参加者：38名

研究発表会

- 1) 中直一(大阪大学名誉教授):ゲルマニスティクと独逸学
- 2) 細川裕史(阪南大学):19世紀中期における無生物主語の lassen 使役構文—「話しことば性」の観点から

○2020年8月20日現在の会員数は238名

中国四国支部

○2020年10月31日(土) 中国四国支部第69回総会ならびに研究発表会をオンライン会議形式にて開催予定。

○機関誌『ドイツ文学論集』53の編集作業が進行中。(今秋発行予定)

○2020年6月26日現在の会員数は83名+賛助会員5社。(前回より1名減)

ドイツ語教育部会報告

1. 総会

新型コロナウイルスの感染拡大のため日本独文学会 2020 年春季研究発表会(東京大学)が中止となったことに伴い、ドイツ語教育部会総会は、2020 年 6 月 6 日(土)に Zoom を用いて開催された。議題は以下の通りである。

I 報告事項

1. 2019 年度活動報告
2. 選挙結果報告
3. 幹事選出細則の変更について
4. その他

II 審議事項

1. 新幹事の承認
2. 会則の改正について
3. 2019 年度決算報告
4. 2020 年度予算について
5. 監事嘱任について
6. その他

III 会員からの意見開陳

「I 報告事項」の「2) 選挙結果報告」では、山本潤選挙管理委員長より開票結果について報告がなされた。これについて会員から反対意見は出されず、「II 審議事項」の 1) において原案通り新幹事が承認された。

「I 報告事項」の「3) 幹事選出細則の変更について」では、太田達也部会長より、2019 年 6 月に日本独文学会が一般社団法人となったことに伴い、幹事改選時期を日本独文学会の改選時期に合わせることを目的とした「幹事選出細則」の改正を行ったことが報告された(詳細は教育部会ウェブサイト内の会員向けページを参照)。

「II 審議事項」の「3) 会則の改正について」では、太田部会長より、2023 年以降は西暦奇数年の 4 月の時点で日本独文学会理事会の構成員となるべき部会選出理事を決定できるよう、総会の開催時期および幹事の任期の変更を伴う会則改正が必要である、との説明がなされ、審議の結果、以下の下線部の通り会則の改正が承認された。

第 13 条 (役員任期)

幹事の任期は、これを嘱任した総会の翌年4月1日から2年とする。

(省略)

第16条 (総会)

2. 通常総会は毎年日本独文学会春季研究発表会および西暦偶数年の日本独文学会秋季研究発表会と同時に開催し、部会長がこれを招集する。

(省略)

[付則]

3. この会則は 2021年1月1日から適用する。

「II 審議事項」の「4) 2020年度予算について」は、原案通り承認された。「5) 監事嘱任について」では、2019年度の監事2名(山川智子氏、西川智之氏)のうち山川智子氏の任期が満了となったため、2020-2023年度監事として松岡幸司氏が推薦され、承認された。

2. 2020-2023年度幹事選挙の結果について

新幹事選挙は、日本独文学会ドイツ語教育部会幹事選出細則に基づいて、投票を2020年5月6日(水)に締め切り、5月21日(木)に開票作業が行われた。選挙管理委員会による開票作業は本来、一箇所に集合して行うことになっているが、緊急事態宣言の発令にともない、今回に限り「選挙管理委員長が公正性に留意しつつWEBカメラの前で開票作業を行い、Zoomで接続した2名の選挙管理委員が記録する」という特別措置をとることとした。開票作業は、選挙管理委員会の山本潤氏(東京大学・委員長)、小林和貴子氏(学習院大学)、坂本真一氏(立教大学)の3名が行い、また幹事選出細則に基づき、幹事1名(草本晶幹事)がZoomを介してこれに立ち会った。開票結果は総会において承認された。

総投票者数	79名
有効票数	435票(うち、白票39票)
無効票	39票(連続三選禁止条項に係わる無効:9票、小封筒に封がされていない票:12票、大封筒に記名がなされていない票:12票、投票用紙の切り離し:6票)
総計	474票

当選者（カッコ内は得票数。得票数同数の場合は、規定により若い会員が上位となる）：

1位 境一三 (32), 2位 太田達也 (26), 3位 吉村創 (17),
4位 柴田育子 (15), 5位 吉満たか子 (11), 6位 齊藤公輔 (10),
7位 能登慶和 (8), 7位 坂本真一 (8), 7位 生駒美喜 (8),
10位 田野武夫 (7), 10位 清野智昭 (7), 10位 野村幸宏 (7)
13位 田中雅敏 (6), 13位 鷺巣由美子 (6), 13位 中川慎二 (6),
13位 保阪靖人 (6), 17位 Degen, Ralph

当選者のうち、吉満たか子氏、生駒美喜氏がドイツ語教育部会会則第15条の辞退権を行使した。このため、田中雅敏氏、鷺巣由美子氏が繰り上げ選出となり、12名の幹事が確定した。

この結果を受けて、6月6日（土）に2020～2023年度第1回幹事会を開催し、職掌を以下のように決定した。

部会長	太田達也
庶務・渉外	田野武夫, 坂本真一
会計	柴田育子
『ドイツ語教育』編集長	鷺巣由美子
編集	田中雅敏, 野村幸宏, 能登慶和
企画	齊藤公輔, 坂本真一, 清野智昭
高等学校	能登慶和
高等専門学校	柴田育子
大学入試問題検討委員会	野村幸宏, 田中雅敏, 太田達也
広報・教育情報	吉村創, 坂本真一
ドイツ語教員養成・研修講座 境一三	
IDV 連絡	清野智昭, 齊藤公輔
部会選出理事	境一三

3. 企画

2020年6月6日に開催予定であった教育部会主催講演会は、日本独文学会2020年春季研究発表会（東京大学）が中止となったことに伴い、中止となった。

4. 大学入試問題検討委員会

2020年日本独文学会春季研究発表会1日目と2日目に予定していた2020年度大学入試問題の展示は、学会の中止に伴い、中止となった。

5. ドイツ語教員養成・研修講座

日本独文学会および東京ドイツ文化センターとの共催で開催されている「ドイツ語教員養成・研修講座」は、2019年10月より関東会場（慶應義塾大学日吉キャンパス）および関西会場（甲南大学岡本キャンパス）を会場として開催されている。なお、2020年4月以降は、新型コロナウイルス感染防止対策のため、ワークショップはZoomを使用してオンラインで行っている。参加者は関東会場10名、関西会場8名である。

会員数（2020年8月19日現在）は、正会員468名、準会員68名、賛助会員：10団体の計546名／団体である。

<文責 境一三>

2020 年度岩崎奨学金（出版助成）について

2020 年度に岩崎奨学金は、若手研究者のための出版助成に改定されましたが、今年度の助成は、下記の書籍の出版に決定いたしましたので、ご報告いたします。

著者：馬場 大介（立教大学文学部 兼任講師）

書名：近代日本文学史記述のハイブリッドな一起源：

カール・フローレンツ『日本文学史』における日独の学術文化接触

出版社：三元社

なお、岩崎奨学金（出版助成）の概要は、下記のとおりです。

【奨学金の趣旨】

日本独文学会は、故岩崎英二郎先生のご遺族からいただいた寄付金で「日本独文学会岩崎奨学金」を創設し、若手研究者の育成のために国際学会の発表に対しての奨学金を支給してきましたが、必要とされている援助を行うという観点から、この度より若手研究者の研究成果公開のための奨学金制度へと改定することになりました。

【奨学金の概要】

1. 博士論文の出版に際して、テニユア職を持たない会員に対して、30 万円を上限に出版費用の助成を行う。
2. 奨学金の支給は年度総額の上限を設定する（2020 年度については 60 万円）。また、同一会員への支給は 1 回のみとする。
3. 募集は年度毎に行い、日本独文学会ホームページその他の手段で会員に広く公示する。
4. 奨学金は 2020 年 4 月より募集を開始する。
5. 奨学金の返済の義務はない。ただし、支給後に、申請対象の研究書の出版を中止した場合、受け取った奨学金を返還するものとする。
6. 他の出版助成を受けることは可能であるが、本奨学金と合わせて出版費用を超えないこと。
7. 奨学金を受けようとする者は、決められた書式の申請書類を日本独文学会事務局に提出する。

8. 審査は日本独文学会常任理事会内に設けた審査委員会が行う。審査委員会は、外部の専門家に審査を依頼することができる。審査の結果適当と認めた場合、奨学金を支給する。
9. 奨学金の原資を使い切った時点でこの事業を終了する。また、事情により、予告なしにこの事業を終了することもある。

【募集人数】

各年度 2 件～3 件程度。

【応募資格】 以下の条件をすべて満たす者。

1. 日本独文学会員。
2. テニユア職を持たない者。

【応募方法】

1. 下記の必要書類を日本独文学会事務局へ郵送する。a) と b) に関しては同時にファイルを電子メールで hojo@jgg.jp 宛に送付する。
2. 応募締め切り：毎年 6 月 30 日
 - a) 奨学金申請書（3 種類）、書式（3）
 - b) 原稿
 - c) 誓約書
 - d) 博士論文の審査に合格したことを証明する文書

【選考方法】

1. 提出された申請書を日本独文学会常任理事会で審査する。
2. 必要に応じて、審査委員会外の専門家に審査を依頼することがある。
3. 申請から 3 ヶ月程度で申請者に採否を通知する。

訃 報

日本独文学会ならびにドイツ語教育界の発展にご尽力くださいました次の方が
お亡くなりになりました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

長谷川 嗣彦 殿 (2019. 10)

小野寺 亮子 殿 (2020. 5. 1)

源 哲麿 殿 (2020. 3. 30)

岸谷 徹子 殿 (2020. 7. 3)

あとがき

「ニュースレター」第3号（Info-Blatt 2020 年秋号）をお届けいたします。夏休み中にもかかわらず、原稿をお寄せ下さった皆様に、心より御礼を申し上げます。

「ニュースレター」の前身にあたる「別冊」では、原稿締切が7月初頭で、まだ春学期の最中でした。昨年「別冊」がオンライン化して「ニュースレター」となり、印刷のプロセスがなくなったことから、締切は8月下旬となりました。その結果、原稿の集まりはかえって悪くなった様に見えます（笑）。研究者にとって大学が夏休みとなる8月は、学期中には叶わない自由な時間のマネジメントが可能となる重要な期間ですから、原稿執筆者の皆様もそれぞれに研究や趣味の世界に没入なさっていたのでしょうか？

さまざまな学会活動のオンライン化が、ここ数年の日本独文学会の傾向であったように見えます。原因は言うまでもなく、学会員の減少に歯止めがかからず、非常に厳しい財政状況が続いていることにあります。研究叢書のオンライン化（@学会 HP）、文化ゼミナール・語学ゼミナール・教授法ゼミナールの各論集のオンライン化（@J-Stage）、そして「別冊」が上記のとおり「ニュースレター」（@学会 HP）となりました。オンライン化により経費は確実に削減されますが、本当にこれまでと同じように、コンテンツを読んでもらっているのか気になるところです。

このような情勢のなかで、やがては学会にとって肝心要の機関誌『ドイツ文学』のオンライン化についても検討されなければならないでしょう。今期の理事会では、この点に関して準備段階の議論がはじまったところです。会員の皆様にも、ご忌憚のない意見を積極的にお寄せいただければ幸いです。

このような流れのなか今年に入り、新型コロナウイルスのパンデミックを契機として、さらなる学会事業のオンライン化の波が押し寄せています。予定されていた東京大学での春季研究発表会は中止され、一部のみがオンライン（@学会 HP）での発表となりました。そして、法人化2年目の社員総会（6月6日開催）や、5月と7月の理事会はウェブ会議システム Zoom を用いて開かれました。8月末から9月初頭にかけてはオンラインで語学ゼミナールの代替企画が開催されます。そして来る秋季の研究発表会は、計画されていた富山大学での開催を断念し、全面的にオンライン開催となりました。学会初めての試みですから、どこまで円滑に機能するかは、蓋を開けてみるまでは誰にもわかりません。しかし獅子奮迅の活躍で、オンライン学会の仕組みを構想し、プログラムを作り上げてくださった山本浩司・山本潤企画担当理事には心からの拍手を送りたいと思います。

「まえがき」にて宮田会長も指摘しておられますが、研究発表会や理事会のオ

ンライン化は、前述の財政難の問題に関してはプラスに働きます。コロナ沈静後にあっても、学会活動のさまざまな局面でウェブ会議システムを積極的に活用することを検討するべきでしょう。しかし個人的な感想ですが、当初は新鮮に感じられた Zoom での会議や授業、そしていわゆる「オン飲み」なども、最近はやや食傷気味です。やはり懇親会という名の真の意味での饗宴で、口角泡を飛ばして思い切り語り合いたいというのが本音ではないでしょうか。コピーがオリジナルへの欲望を生みだし、デジタルがアナログへの欲望を生み出すという観察はメディア論ではありふれていますが、否応なしに進んでゆくデジタル化の流れのなかで、いままで当たり前享受してきた古き良き伝統のありがたさに思いを巡らせています。

川島建太郎

編集

一般社団法人 日本独文学会庶務委員会

宮田 眞治（委員長）

川島 建太郎（編集担当） 白井 智美（編集担当） 橘 宏亮（編集担当）

田中慎（編集担当） 成田 節（編集担当）

編集・発行

一般社団法人 日本独文学会

170-0005 東京都豊島区南大塚

3-34-6 南大塚エースビル603

電話03-5950-1147

振替00160-9-135018

E-Mail（メールフォーム）：

<http://www.jgg.jp/mailform/buero/>

ニューズレター2020 年秋号

JGG-Info-Blatt / Herbst 2020

2020年9月1日発行